

# 芸大の歩き方

- 上野の杜のキャンパスガイド -

## 第2回 彫刻

歴史ゆかしい「上野」という場所に校地を構え、明治以来の伝統を誇る芸大の隠れた「名所」を毎回テーマを変えて紹介する。



**T 白山松哉**  
1853～1923年 漆芸家  
〔水谷鉄也作〕



**U レオニード・クロイツアー**  
1884～1953年 ロシアのピアニスト  
〔山本豊市作〕



**S 津田信夫**  
1875～1946年 鑄金家  
〔沼田一雅作〕



**W 小山作之助**  
1863～1927年 作曲家  
〔長谷川義起作〕



**V 伊沢修二**  
1851～1917年 音楽教育家  
〔長谷川義起作〕



**X 白浜徹**  
1865～1927年 図画教育家  
〔水谷鉄也作〕

S=1/1,500

0 10 20 50 100M

### 彫刻を探せ！

布施英利

上野の杜は、彫刻の森でもある。芸大のキャンパスには、たくさんの彫刻がある。木漏れ日を浴びながら、彫刻を鑑賞して歩くのも楽しい。

お勧めのコースは、まず美術学部の森である。キャンパスの中央あたりに小さな森がある。クスの巨木や、シイトチなどが混然と茂っている。散策路もある。そのなかに建っているのが六角堂だ。秋には、周囲のモミジやハゼが赤く染まる。夕方になると堂内はライトアップされる。

六角堂にあるのは、平櫛田中が作った「岡倉天心像」(一九三二年)だ。彫刻家・田中には釣人姿の天心像がいくつもあるが、こちらの天心は正装している。さすが東京美術学校校長という風格がある。堂の背面板には「Asia's One」と刻まれている。「東洋の理想」の冒頭の言葉だ。

「ここには日本、東洋の歴史がある」などと感慨を抱いて眺めていると、その背後に何かの視線を感じる。誰かが「ちょっと待ったあ!」と言っているようだ。ロダン作の「バルザック像」(一九一七年)だ。

バルザックは、天心を睨みつけている。「アジアが一つ?」とヨーロッパの文豪は挑戦的である。この天心像とバルザックの位置関係、それにしても絶妙だ。意図して配したのか、偶然なのかはわからない。しかしこの距離感緊張感。芸大の森の彫刻鑑賞の、ひとつのクライマックスである。



**H 川端玉章**  
1842～1913年 四糸派の画家  
[武石弘三郎作]



**I 寺崎広業**  
1866～1919年 日本画家  
[内藤伸作]



**J 安井曾太郎**  
1888～1955年 洋画家  
[石井鶴三作]



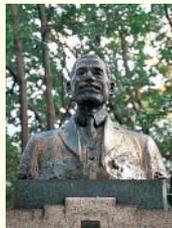
**K 藤島武二**  
1867～1943年 洋画家  
[本郷新作]



**Q 海野勝眼**  
1844～1915年 彫金家  
[海野美盛作]



**R 香取秀真**  
1874～1954年 鍍金家  
[平柳田中/首原安男作]



**D 久米桂一郎**  
1866～1934年 洋画家  
[北村西望作]



**C アーネスト・フェノロサ**  
1853～1908年 美術史家  
[長原孝太郎原画]



**B 岡田三郎助**  
1869～1939年 洋画家  
[田辺至作]



**G 大村西崖**  
1868～1927年 彫刻家・美術史家  
[朝倉文夫作]



**F 白井雨山**  
1864～1928年 彫刻家  
[建畠大夢作]



**E 橋本雅邦**  
1835～1908年 狩野派の画家  
[白井雨山作]



**N 高村光雲**  
1852～1934年 彫刻家  
[高村光太郎作]



**M 石川光明**  
1852～1913年 彫刻家  
[朝倉文夫作]



**L 加納夏雄**  
1833～1898年 彫刻家  
[米原雲海作]



**O 竹内久一**  
1857～1916年 彫刻家  
[沼田一雅作]



**1 オーギュスト・ロダン作「バリュザック像」**



**2 オーギュスト・ロダン作「青銅時代」**



**3 保田龍門作「ペーターベン像」**



**A 岡天心**  
1862～1913年 美術史家・教育者  
[平柳田中作]



**P 正木直彦**  
1862～1940年 美術行政  
[沼田一雅作]

なおロダンの彫刻は、ほかに図書館裏に「青銅時代」がある。また芸術の巨匠の像といえば、音楽学部にはペーターベン像もある。楽聖は奏楽堂を正面からみている。森と彫刻と偉人たち。芸大の庭には美と自然がきらめいている。

(ふせ・ひでと/美術学部助教授美術解剖学研究室)